

キーマンに聞く新スキンケアシリーズ「肌極」の開発背景・マーケティング戦略



コーセーは、11月16日よりコメ由来の成分を配合した新スキンケアシリーズ「肌極(はだきわみ)」の販売を開始した。

20代・30代女性の肌悩みの解決には、8年前に導入し発売3カ月で40万本以上を売り上げた「モイスチュアスキンリペア」の主成分である「ライスパワーNo.11」が最も効果を発揮するということを突き止め、再びスポットを浴びせた。



今回は、コーセーの研究開発、商品開発、マーケティングを担当されているお三方から、それぞれ「ライスパワーNo.11に関する研究開発エピソード」「モイスチュアスキンリペア、肌極の商品開発秘話」「肌極のマーケティング戦略」について話を伺った。



左から尾之内氏、佐藤氏、立澤氏

尾之上聡氏

(コーセー研究所開発研究室薬剤開発グループ)
「ライスパワーNo.11」の研究開発に携わった

佐藤みどり氏

(商品開発部スキンケア・ヘアケア開発課)
「モイスチュアスキンリペア」「肌極」の商品開発を担当

立澤彰啓氏

(コンシューマーブランド事業部企画部企画2課)
「肌極」のマーケティングを指揮

最も優れた保湿効果のある「ライスパワーNo.11」

ライスパワーエキスは日本酒をつくる発酵の技術を応用して得られた成分で、白米100%からできている。発酵・熟成の違いでできた数多くのエキスの中で最も保湿効果に優れたものが「ライスパワーNo.11」である。

「ライスパワー
No.11」の
特徴は
「皮膚水分保
持能の改善」

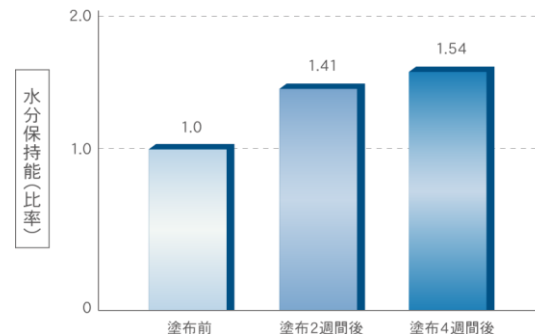
【ライスパワーNo.11】

- 米由来の数十種類のアミノ酸・豊富なペプチド・糖類を生体に有効なベストバランスで含有している。
- 本来、米の中には存在しない様々な効果成分も含まれている。
- これらの効果成分と同じものを化学的に合成することはまず不可能。
- 「水分保持能の改善」が認可されたのはNo.11だけ。
- 「ライスパワーNo.11」は、保湿力の高さとともに角層にある細胞間脂質の主要成分である「セラミド」の生成を促して肌の保水能力を改善させることが実証されている。

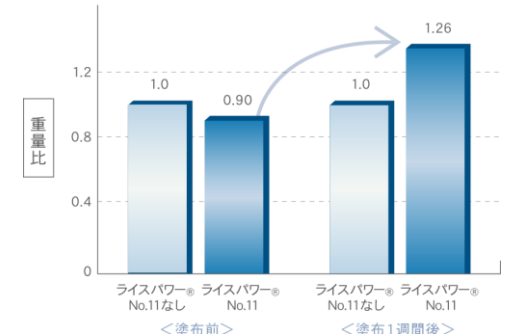
尾之上聡氏

「水分保持能の改善」を証明するデータを見たときに、この素材は水分保持能を改善することにより、さらに優れた肌効果を有するのではないかと、強く感じた。

【ライスパワー®No.11継続塗布による水分保持能増大効果】
n=15



【ライスパワー®No.11塗布による、あれ肌部位におけるセラミド量の変化】
n=10



※肌極の公式Webサイトで公開されているグラフ

さらなる研究により、他の保湿素材と違うことを再確認

社内で「保湿の素材はいっぱいある」という意見があり、効果の実証には力を入れた。

乾燥肌の方が使用しても水分保持能が回復している。つまり肌質を改善していく効果があるというデータが得られた。

さらにデータの充実に努めた

研究を重ね、わかったこと

健常な肌の方にお使いいただいても水分保持能は増大していた。

セラミドの量を増やして水分保持能を改善するだけでなく、角層の細胞一つひとつを成熟化させ、角層全体の状態を変えていく働きがある。

角層の皮膚水分保持能が改善されたことでバリア機能も改善し、元来バリア機能を補う目的で分泌される皮脂の分泌量が減少。

「ライスパワーNo.11」配合製剤の連用試験では、被験者の皮脂量が少なくなる傾向も認められた。

尾之上聡氏

水分保持能の改善が肌そのものを変えていく効果につながっているというデータが得られたことで、これまでの保湿素材とは全く違うという思いを強くし、実際の処方開発を含めて検討のドライブをかけていった。

この度は、資料をご覧いただき誠にありがとうございました。

**このテーマに関する詳細情報をお知りになりたい場合は、
当コーナーのお問い合わせフォームをご利用ください。**

※詳細な資料データ解説、社内セミナーのご依頼など、ご要望をお寄せください。

宜しくお願い申し上げます。

株式会社ソフィアリンクス

※なお、当企画は主に化粧品メーカー様のマーケティング支援を目的としておりますので、広告代理店様、企画会社様からのご要望にはご対応を控えさせて頂いております。何卒、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。